

NPO マネジメント共育ネットワーク 経営寺子屋 第15回 「セイコーグループの歴史と多角化」

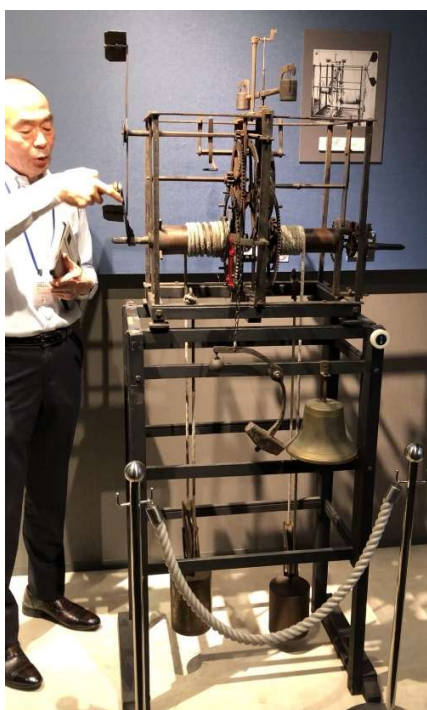
2018年4月

マネジメント共育ネットワークが主催する第15回経営寺子屋は4月21日、東京都墨田区にあるセイコーミュージアムで開催されました。南青山で行われてきた前回までとは打って変わり、今後は各企業の博物館や工場などを訪ね、現場や現物を見て他業種から学んでいく予定。今回はその新シリーズの初回です。

会には新館長・村上 斉氏の挨拶に続き、前館長の渡邊 淳氏による講演で始まりました。

その序盤は「時計の歴史」で、それが果たしてきた社会的役割や、引き起こした大きな変化などに加え、技術的進歩がいかに多くの他産業に関わり、幅広く社会に貢献してきたかが事例とともに解説されました。

続いて、明治期その国産化に尽力し、東洋の時計王といわれた「服部金太郎」と、彼が築き上げた SEIKO グループの歴史が、多くのエピソードとともに紹介されました。



講演の後半は、1964年の東京オリンピックをきっかけとした電子技術の開発と、それによる多角化が紹介されましたが、そこでは特に、失敗を恐れない風土を牽引してきた経営者たちの存在の大きさが浮き彫りになり、自組織の閉塞感に悩む参加者に多くの示唆を与えてくれました。

約1時間の講演後、参加者は2班に分かれ館内を見学し、講演から得られた知識や情報を体感することができました。また特に「和時計」のコーナーでは、その希少性だけでなく、我が民族のユニークさや強みを見直すという貴重な時間をもつことができました。

この情報化時代、簡単に得られる知識は簡単に失われるだけに、足を運んで現物を見ることの大切さを、改めて実感する貴重な機会ともなりました。

後は全員が再集合し、渡邊氏との質疑応答後解散しましたが、以上のような多くの意義も確認でき、非常に有意義な新シリーズの初回となりました。

(以上)